

研究委託校・実践校の紹介

むかわ町立富内小学校

やさしさ、たくましさ、かしこさをはぐくむ道德教育の推進

～児童の心を揺さぶり、深く考えられる道德授業を目指して～

公開研究会：10月27日(金)

本校は昨年度に引き続き、「特別の教科 道德」の研修を進めています。児童数4名の小規模・へき地校で、地域のよさを生かした教育活動を行うことが大切と考えています。

道德性の育成に当たっては、道德の時間を核としつつ、児童の実態に応じた様々な学習形態を試み、体験活動との関連を図りながら、①全校児童による道德、②保護者参加型の親子道德、③道德の指導に関する学習、整備、④道德の授業のミニ実践交流などに取り組んでいます。

また使用する教材の選定や提示方法、様々な指導方法を取り入れて、教師の創意工夫のあるよりよい授業となるよう努めています。



4・5年生が一緒になったの道德の授業



全校児童によるソーシャルスキル学習「なかよしコミュニケーション」

登別市立緑陽中学校

自らの考えを伝え合う「道德科」の授業のあり方

～系統的な道德科の授業を目指して～

公開研究会：10月27日(金)

本校では、『自らの考えを伝え合う「道德科」の授業のあり方～系統的な道德科の授業を目指して～』を研究主題として、研究を推進しています。

今年度は3年計画の2年目として道德科の授業のあり方を見つめ直し、生徒自らの考えを表出できる授業を目指しています。①小グループ活動を取り入れることによる「考え、議論する」場面の充実、②「ローテーション道德」の実践による指導方法の工夫に重点を置いて研究に取り組んでいます。



2年生 道德 ICTを利用した導入場面



2年生 道德 ホワイトボードで議論

平成29年度 研修講座

7月27日、のぼりべつ文化交流館 カント・レラで、北海道伊達高等養護学校 立田 江利 氏を講師に招き、「特別支援教育の視点から考える支援のあり方」と題して研修講座を実施いたしました。胆振管内から29名の先生方の参加をいただきました。

研修講座の様子や資料については、胆振教育研究所のホームページ上で紹介しておりますのでご覧ください。

(<http://www.iburi-education.jp/>)



日常の学習の中で起こる子どものつまずきを分析して支援の方策を考えるというお話をいただきました。

2学期以降の自分の実践に生かしていきたいと考えます。子どもの困り感を実感しました。自分が子どもに負荷をかけるないように注意したいと思いました。



ブレインジム「ブレインボタン」



今回研修に参加してみて、発達障害に対する理解が深まりました。子どもによって得意不得意があり、苦手とすることを理解した上で支援する必要があると感じた。

特徴、具体的な支援を参考にしながら学級でも実践しようと考えています。実際に体験してみると、子どもの気持ちを理解することができました。



ブレインジム「クロススクロール」

〈演習〉

簡単なエクササイズをすることで、人が生まれながらにもつ潜在能力を発揮することを助けるプログラム「ブレインジム」について、立田先生のアドバイスを受けながら要点を学ぶことができました。

〈講義〉

様々な障がいの特性と指導のポイントについて、例を交えながら、お話をいただきました。

参加者の声



ブレインジム「フックアップ」

発達特性と発達障害の定義の違いなど、知らないことが多く勉強になりました。

個に応じた指導、支援のためには、背景を捉えてその方法を考えなくていけないことや、変化(成長)していく生徒の変容にも対応していかなければいけないことを再認識できました。



ブレインジム「水を飲む」

アセスメントを支援に生かす視点を具体例を交えて教えていただき勉強になりました。ブレインジムも学校で取り組んでみたいと思います。

疑似体験では、自身の指導を見直すことができました。学んだことを2学期からの指導に役立てたいと思います。ありがとうございました。

最新の情報が知れてよかった。ブレインジムは普通の学習にも取り入れやすいと思ったのでやってみたい。

心理疑似体験では、普段良かれと思って声かけていることが、子どもにたくさんストレスをかけている場面もあるとあらためて感じ、これからの言葉かけに気を付けたいと思います。

研究委託校・実践校の紹介

壮瞥町立久保内小学校

公開研究会：11月17日(金)



4年 道徳「ごめんね、サリー」(自然愛護)教材の主人公の心の葛藤について話し合っているところ

本校は、平成27年度から3か年計画で「他者とともに、よりよく生きる子どもの育成」を研究主題とし、研究領域を「道徳の時間」として、これまでに「久保内小道徳の10の工夫を生かした授業づくり」や「問題解決的な道徳の指導方法」などについて、実践検証を重ねてきました。

最終年度の今年は、まとめとして「道徳の時間の評価の在り方」にも研究の視点を当て、授業実践による検証を継続して進めているところです。

11月に開催する公開研究会では、児童が意見を交流しながら、ねらいとする価値について考えを深めていく様子をお見せしたいと考えています。

他者とともに、よりよく生きる子どもの育成
～「道徳の時間」における指導の改善・工夫を通して～



5・6年 道徳「父の言葉」(親切、思いやり)本時の学習のふり返りを道徳ノートに書いているところ

白老町立竹浦小学校

公開研究会：11月17日(金)

国語科の指導を通して、生きて働く「言葉の力」を育てる実践に取り組んでいます。身に付けさせたい力を、「互いの立場や考えを尊重して、言葉で伝え合う力」と捉え、他教科等との連携を図りながら研究を推進しています。

「国語科児童アンケート」では、「児童の関心・意欲」と、「教師の評価」との2つの視点から結果を考察し、授業改善に活用しています。

また、「身に付けさせたい伝え合う力一覧表」を作成し、1年生から6年生まで、学年の系統性を踏まえた指導の工夫をしています。

生きて働く「言葉の力」を育てる指導法の工夫
～国語科の指導を通して～



ゴールを明確にした授業の構築



文章構造全体をとらえるための全文拡大プリント

伊達市立伊達小学校

公開研究会：11月17日(金)



3年 国語科「気になる記号」報告文を修正し合っているところ

本研究は、言語活動を基盤として、思考力・判断力・表現力の育成を図ることをねらいとし、4つのチームに分かれて研修を行っています。

国語科では「教えて考えさせる確かめる国語の授業」、算数科では「友達の考えを聞き、自分の考えを深める授業」、総合的な学習の時間・生活科では「必要性をもたせる場の設定と各学年に応じた言語活動の活用を意識した授業」と設定し、副主題である「互いに高め合い学び合う授業づくり」を目指しています。

また、特別支援教育では「子どもに寄り添い、できる状況づくりを意識した授業」とし、研修を進めています。

自ら思考・判断・表現する子の育成
～互いに高め合い学び合う授業づくりを通して～



6年 算数科「分数のわり算を考えよう」小数を分数にする方法を考え、話し合っているところ

所報
いぶり

■発行所 胆振教育研究所 TEL・FAX 0143-80-3100 ホームページ <http://www.iburi-education.jp/>
〒059-0551 登別市登別温泉町123-1 のぼりべつ文化交流館カント・レラ2階

■発行者 安宅錦也

■印刷所 (有)村上印刷 伊達市錦町95-1 TEL0142-23-2625 E-mail murakamiprinting@amber.plala.or.jp